

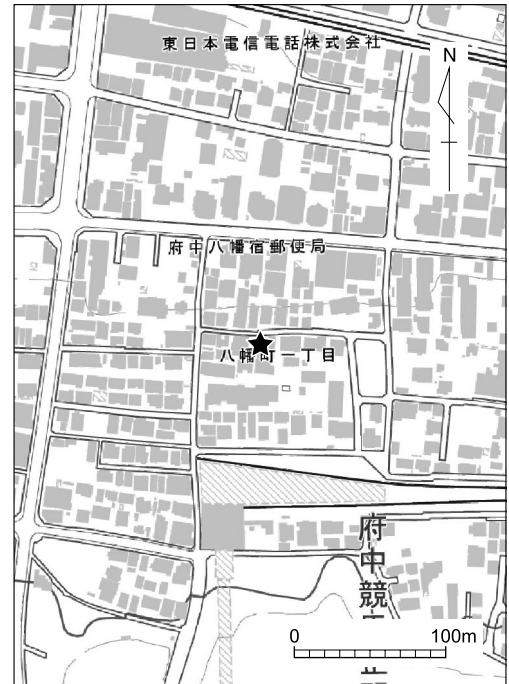
17. 1874 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡		
グリッド	N62-22次		
所在地	東京都府中市八幡町1-12-3		
現地調査期間	令和2年12月18日～令和3年2月13日		
面積	30.1㎡	遺物出土量	コンテナ2箱(77袋)
検出遺構	竪穴建物跡1棟(N62-S I 59) [奈良・平安時代] 溝1条(N62-SD19) [奈良・平安時代]		
調査担当者	佐藤梨花		
調査従事者	中條寛・大澤一重(府中市遺跡調査会), 水澤丈志・戸部英二・脇坂吉信・廣瀬大輔(加藤建設(株))		

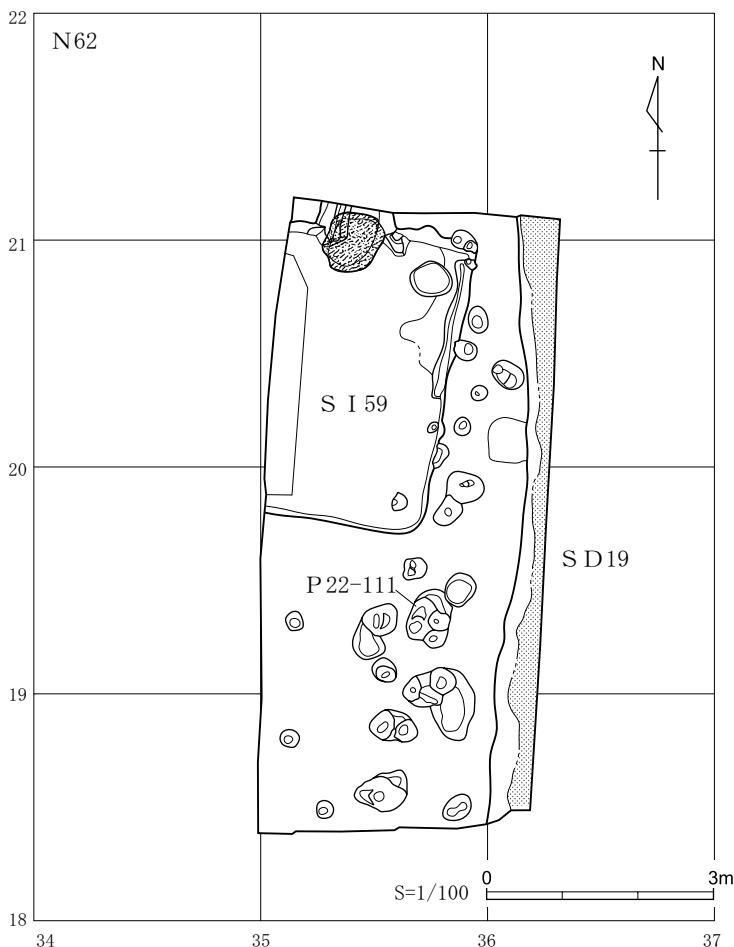
1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡の国府地域に位置し、府中競馬場正門前駅から約100m北、旧甲州街道の約70m南に所在する。地形的には府中崖線より約240m北の立川段丘面上に位置する。

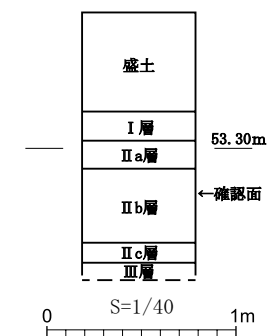
当調査地区では、現地表面から約70cmまで近現代の表土及びI層があり、-0.7mでII層上面に達した。-0.7～0.8mで古代の遺物包含層相当となるII a層、-0.8～1.2mで縄文時代の遺物包含層相当となるII b層、-1.2～1.3mでII層とIII層の漸移層相当となるII c層に分けられる。遺構の検出は、現地表面から約98cmの深さ、II b層中にて行った。



第1874-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1874-2図 調査全体図



第1874-3図 基本層序

2 遺構と遺物

竪穴建物跡 1 棟と溝 1 条を検出した。

竪穴建物跡

N 62 - S I 59 北竈をもつ竪穴建物である。規模は、南北 4.2 m 以上、東西 2.35 m 以上で、竪穴の西側は調査区外に延びる。検出面から床面までの深さは 0.5 m ~ 0.7 m を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱型を呈する。貼り床される床面はほぼ平坦で、全体的に硬化する。建物北東隅で柱穴を確認した。周壁溝は建物東側でわずかに確認した。掘り方部分は地下保存されるため、面的な掘削は行っていない。サブトレンチを設定し、断面の記録のみに留めた。

竈は北壁中央で確認した。調査区内での規模は、中央部袖長 0.88 m、壁掘り込みの大半は調査区外北側に至り、形状は不明である。袖は崩れており、周壁溝付近でわずかに残る程度であった。

遺物は全体で 395 点出土し、その内訳は縄文土器 2 点、土師器 289 点、須恵器 90 点、瓦 2 点、金属製品 3 点、石製品 1 点、礫 7 点、その他 1 点で、土師器・甕 (01.05.06.)、土師器・台付甕 (02.03.04.07) 須恵器・坏 (08 ~ 14)、須恵器・蓋 (15)、須恵器・鉄鉢 (16) をそれぞれ図示した (第 1874-6・7 図)。土師器甕・台付甕 (01 ~ 07) 及び須恵器坏・蓋 (08 ~ 15) は、いずれも H 4 期を中心に H 2 期 ~ H 4 期の範疇に収まる。鉄鉢形の須恵器 (16) は、竪穴北壁近くの竈西側床面直上付近で、破片の状態で発見された。破片の一部は、竈もしくは棚状施設の崩落土と見られる粘質土によって覆われる。建物廃絶とほぼ同時に、これも廃棄されたものと見られる。器形は、口縁部が内湾しており、口縁端部は強いヨコナデにより面取りがなされる。底部形状はやや丸みを帯びた尖底である。体部外面にはわずかにケズリ痕が残っていた。胎土には白色針状物質が含まれており、南比企産と考えられる。

暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から、古代 (H 期後半) の竪穴建物跡と思われる。

溝

N 62 - S D 19 南北方向の溝である。両端が南北側ともに調査区外に継続し、東側は調査区外に及ぶ。調査区内での規模は南北 7.85 m、東西 0.6 m で、検出面からの深さは 0.2 m を測る。全域にわたり、底面より上約 10cm のレベル (覆土 3 層上面) で、硬質面を確認した。硬化の程度は比較的弱い。この硬質面は溝のほぼ全域に広がっており、道路跡の可能性も考えられる。

遺物は土師器片 27 点、須恵器 30 点、土師質土器 5 点、陶器 2 点、石製品 1 点の、計 65 点が出土した。砥石 (17) を図示した (第 1874-7 図)。

暗褐色土を主体とする覆土の様相から、古代の所産と考えられる。

ピット

ピットは 23 基検出された。いずれも暗褐色土を主体とする覆土の様相から古代の所産と考えられる。14 基からそれぞれ、土師器片、須恵器片、土師質土器片、瓦片、陶器片、礫が出土している。P 22-111 から出土した灰釉陶器碗 (18) を図示した (第 1874-7 図)。

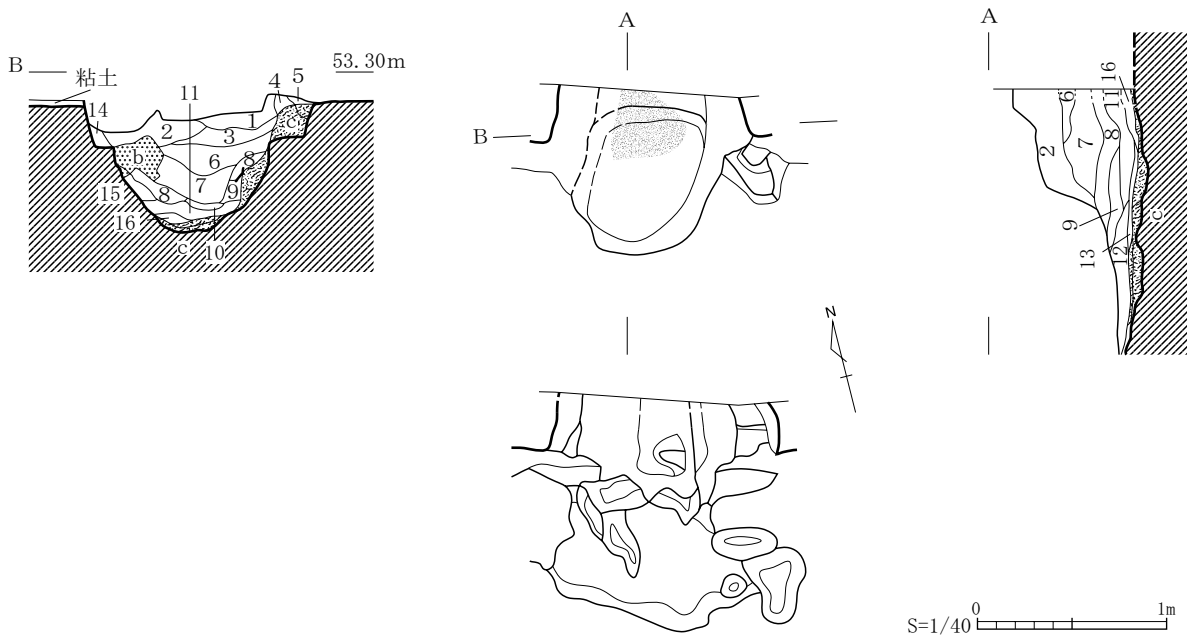
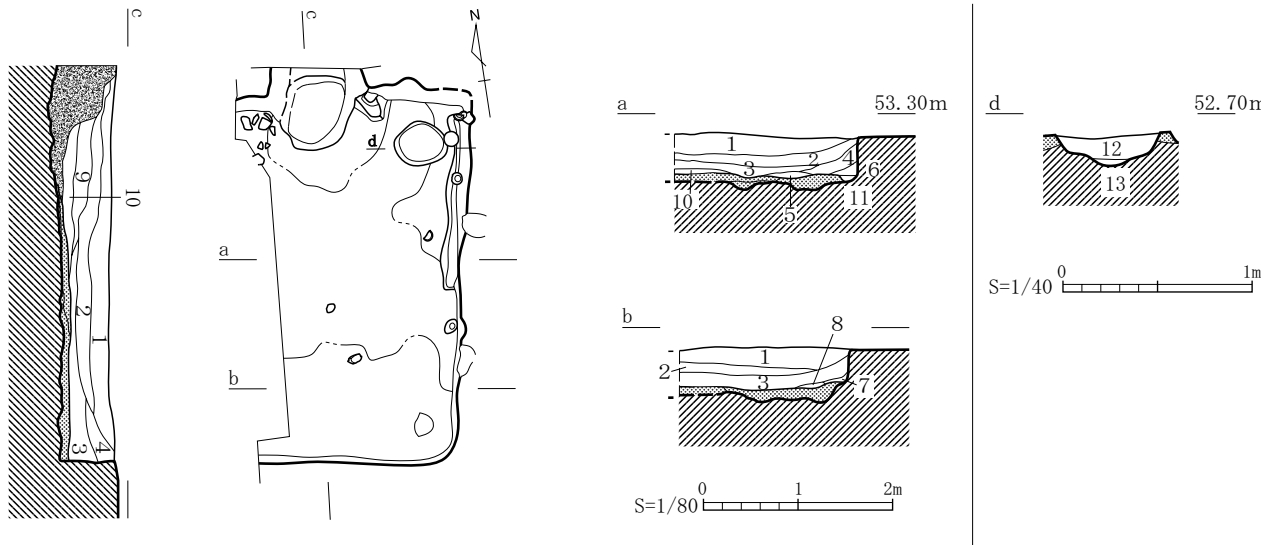
表土からの出土遺物

表土からは土師器 67 点、須恵器 80 点、土師質土器片 5 点、陶器片 2 点、瓦片 5 点が出土している。図示したのは須恵器坏 (19)・高台付塼 (20・21)・高台付坏 (22) である (第 1874-7 図)。

3 まとめ

今回の調査では、9 世紀後半ごろの所産と思われる竪穴建物と、道路跡の可能性のある溝を発見した。周辺の調査地区では、この溝に接続するとみられる遺構は発見されていない。道路跡であれば、このあたりの集落の生活道路である可能性もあるので、どこに向かうのか、今後の成果

の蓄積を待つて明らかにしたい。



第 1874-4 図 N 62- S I 59 平面図・断面図

N62-S I 59 土層説明

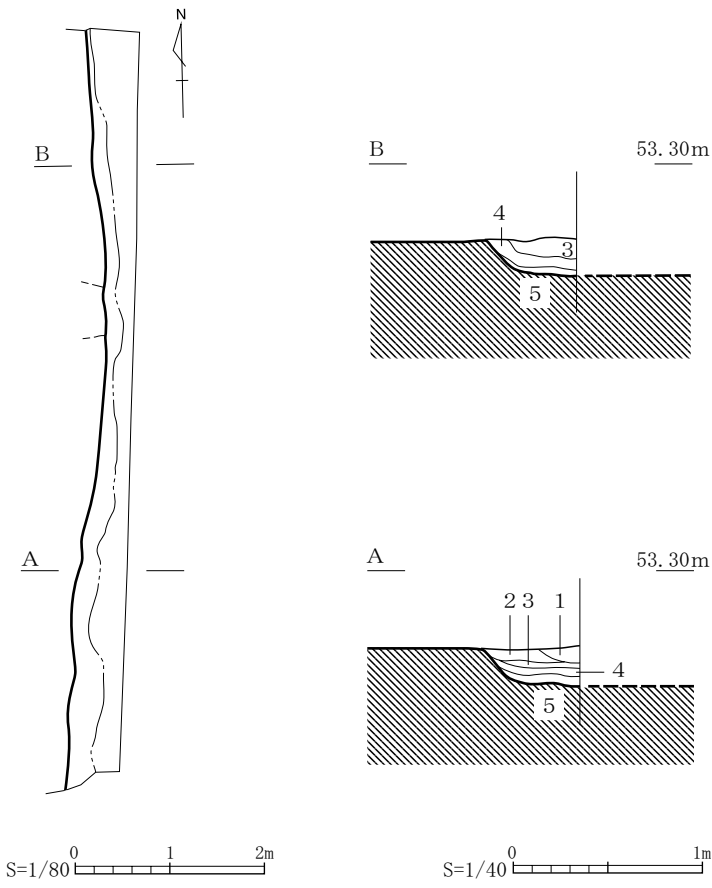
1. 黒褐色土 灰白色粘土極小粒少量, 炭化物小粒少量, 焼土小粒少量, ローム大粒少含む。しまり弱。粘性弱。
2. 黒色土 ローム小粒少量, ロームブロックφ15 ~ 20mm少量, 焼土極小粒少量含む。しまり弱。粘性弱。
3. 暗褐色土 炭化物φ5 ~ 15mm少量, 焼土小粒少量, ローム小粒少量。しまり弱。粘性弱。
4. 黒色土 ローム中粒少量, しまり弱。粘性弱。
5. 黄褐色土 ローム中粒多量含む。しまり弱。粘性やや強。
6. 褐色土 ロームブロックφ10 ~ 15mm少量含む。しまり弱。粘性やや強。
7. 褐色土 ローム中粒多量。しまりやや強。粘性やや強。
8. 褐色土 ローム中粒少量。暗褐色土中粒多量。しまり弱。粘性やや強。
9. 暗褐色土 黄白色粘土中粒多量, 黄白色粘土ブロックφ10 ~ 30mm中量。焼土中粒少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
10. 暗褐色土 黄白色粘土ブロックφ30 ~ 50mm少量, 焼土ブロックφ15 ~ 20mm少量, ローム小粒少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
11. 暗褐色土 ローム中粒少量, ローム極小粒少量含む。しまり弱。粘性弱。周溝覆土。
12. 暗褐色土 灰中量, 焼土小粒少量, 炭化物小粒少量, ローム小粒中量, 白色粘土小粒少量含む。しまり弱, 粘性弱。
13. 褐色土 ロームブロックφ10 ~ 20mm少量, ローム中粒多量含む。しまりやや強, 粘性やや強。

17.1874 次調査報告

竈

1. 暗褐色土 黄白色粘土ブロックφ15～20mm中量, 焼土小粒少量含む。しまりやや強。粘性強。
2. 暗褐色土 黄白色粘土ブロックφ5～10mm中量, 焼土ブロックφ5～10mm少量。しまりやや強。粘性やや強。
3. 黒色土 黄白色粘土小粒少量, 焼土小粒少量含む。しまり弱。粘性弱。
4. 黄白色土 黄白色粘土ブロックφ5～10mm多量, しまり強。粘性強。棚状施設構築土か。
5. 暗褐色土 黄白色粘土中粒中量, ローム小粒少量含む。しまり強。粘性やや強。
6. 暗褐色土 黄白色土粘土ブロックφ15～30mm中量, 焼土小粒少量含む。しまりやや強。粘性やや強。
7. 暗褐色土 焼土小粒微量, 粘土小粒少量含む。しまり弱。粘性弱。
8. 黄白色土 黄白色粘土ブロックφ20～30mm多量, 焼土ブロックφ20～30mm中量, 炭化物小粒少量。しまり強。粘性強。
9. 明赤褐色土 黄白色粘土中粒少量。焼土中粒多量。しまり弱。粘性弱。
10. 明赤褐色土 焼土小粒多量, 炭化物小粒微量含む。しまり弱。粘性弱。
11. 明赤褐色土 灰多量, 炭化物小粒少量, 焼土小粒多量。しまり非常に弱。粘性弱。
12. 暗褐色土 粘土極小粒少量, ローム小粒微量, しまりやや強。粘性弱。
13. 明赤褐色土 灰多量, 焼土小粒多量, 黄白色粘土小粒少量。しまり弱。粘性弱い。
14. 明赤褐色土 灰多量。焼土小粒多量, 炭化物φ10～20mm少量。しまり弱。粘性強。

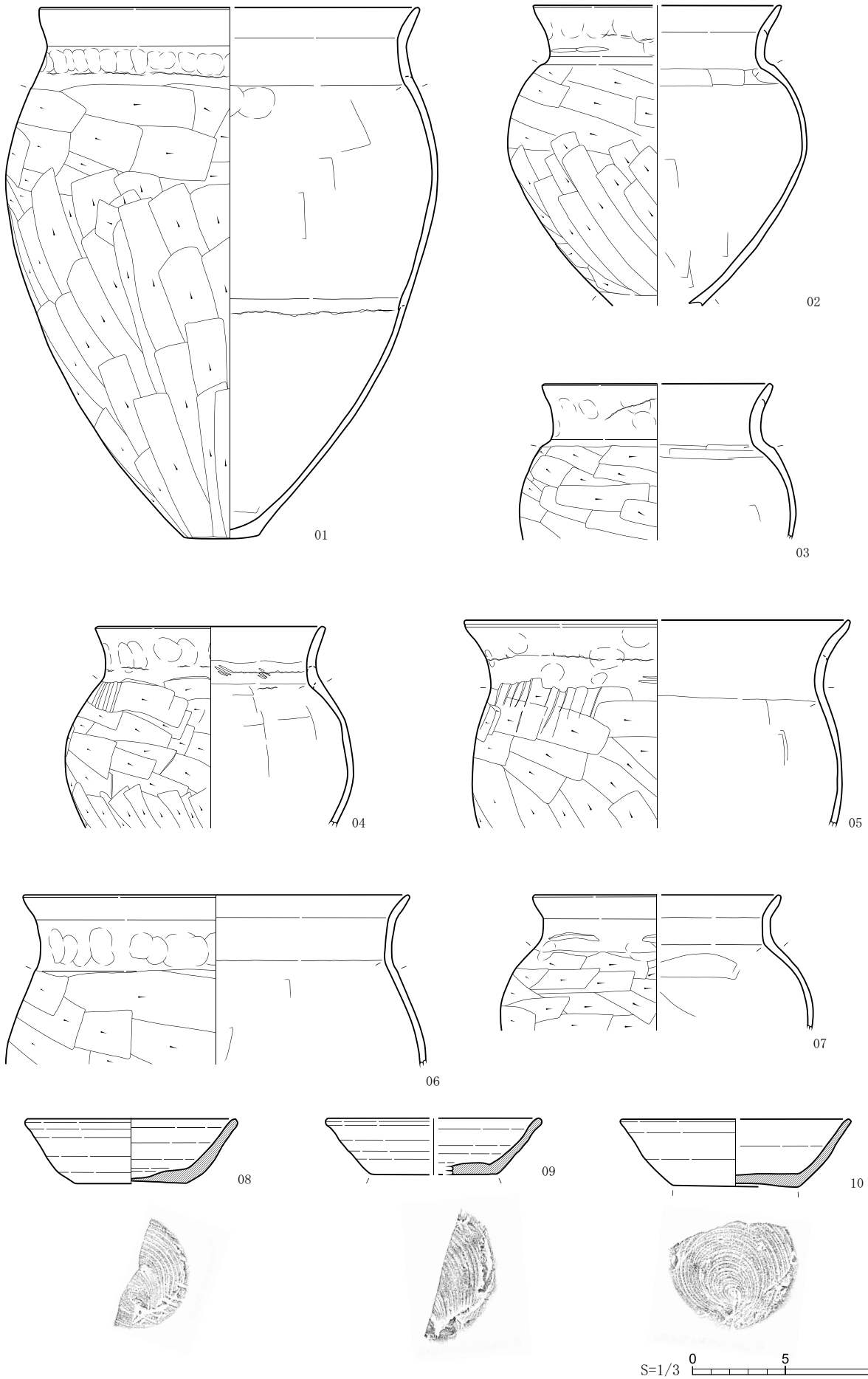
S I 59	
<p>グリッド プラン・主軸 規模</p> <p>壁 ピット 周壁溝</p> <p>床 掘り方 堅穴の備考</p>	<p>N 62(35～36, 19～21) 区。 方形? N-11°-E。 南北4.2以上×東西2.35以上m。 高さ最大70cm。ほぼ垂直に立ち上がる。 ピット1基(北東) 東壁に一部検出された。幅10～20・深さ30～60cm。 貼り床。床面が全体的に硬化。 全体的に浅く, 平坦に掘り込む。 堅穴の西側は調査区外。</p>
<p>竈位 置 用 材 中 央 部 軸 長 壁 掘 り 込 み 床 掘 り 込 み 奥 壁 煙 道 両 袖 部 内 幅 内 方 張 り 出 し 火 床 竈 の 備 考</p>	<p>北壁中央部。 白色砂質粘土。 88cm以上。 不明。 南北 不明。 不明。 不明。 不明。 右30cm・左0cm。 建物床面とほぼ同じ高さ。</p>



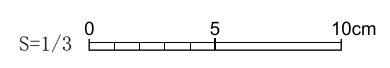
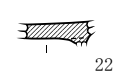
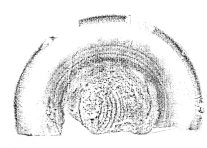
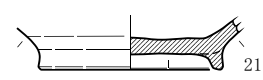
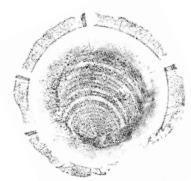
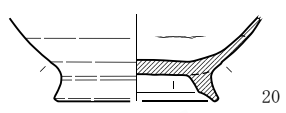
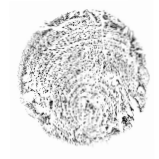
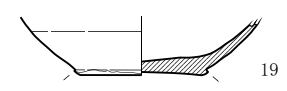
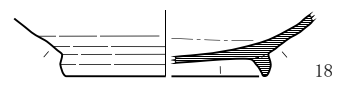
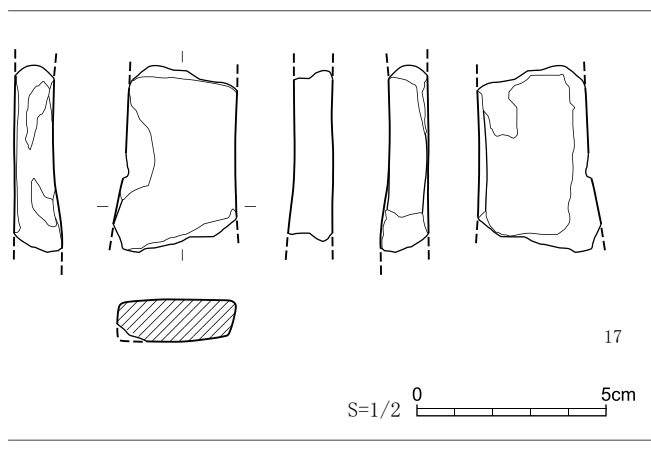
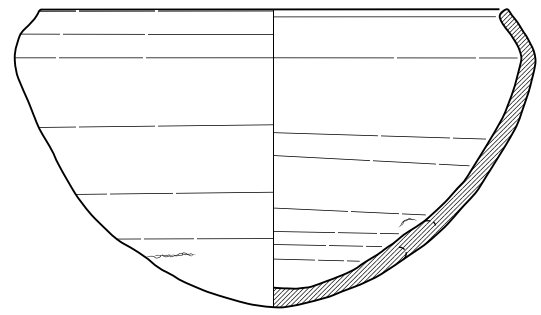
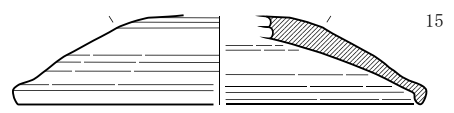
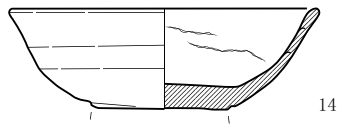
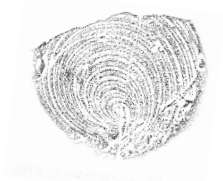
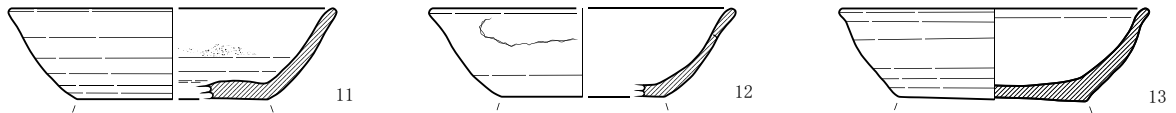
S D 19	
グリッド	N 62(36・37, 18～21)
偏向	ほぼ真南北。
断面形態	皿状。
規模	長さ7.85m以上×幅60cm以上×深さ
備考	20cm 南・北・東側は調査地区外。

- N62-S D19 土層説明
1. 暗褐色土 焼土小粒中量, 焼土ブロックφ5～10mm少量。しまりやや強。粘性やや強。
 2. 暗褐色土 焼土極小粒微量, しまり強。粘性強。炭化物粒少量。
 3. 暗褐色土 焼土小粒少量, ローム小粒少量。しまり強。粘性強。上面は硬化しており硬化面が広がる。道路跡の可能性あり。
 4. 暗褐色土 ローム小粒微量。しまり強。粘性強。
 5. 褐色土 ローム小粒少量。しまり強。粘性強。

第 1874-5 図 N62- S D 19 平面図・断面図



第 1874-6 図 遺物実測図 (1)



第 1874-7 図 遺物実測図 (2)

No.	遺構	器種	口径・器高・底径	特徴
1	N 62 - S I 59	土師器・甕	20.3・28.6・4.1	橙色。口縁部 1/4 強, 胴上部・胴下部・底部 1/2 強残存。
2	N 62 - S I 59	土師器・台付甕	13.1・(16.2)・-	上部・にぶい黄橙色, 下部・褐灰色。口縁部少量, 胴上部 1/8, 胴下部 1/2 強残存。部分的に煤付着。体部底は輪状に剥離する。
3	N 62 - S I 59	土師器・甕	12.1・(8.4)・-	にぶい黄橙色。口縁部・胴上部 1/4 強残存。内・外面煤付着。
4	N 62 - S I 59	土師器・甕	12.0・(10.9)・-	にぶい橙色。口縁部ほぼ, 胴上部 7/8 残存。外面一部に煤付着。頸部直下に器壁が波打つ箇所がある。最終調整段階でのケズリ板の引っ掛かりか。
5	N 62 - S I 59	土師器・甕	20.6・(10.9)・-	明赤褐色, にぶい赤褐色。口縁部 1/4 弱, 胴上部 1/4 強残存。
6	N 62 - S I 59 下層	土師器・甕	20.5・(9.1)・-	明赤褐色, にぶい褐色。口縁部 3/4 強, 胴上部 1/4 強残存。
7	N 62 - S I 59 上層	土師器・甕	13.1・(7.3)・-	口縁部褐色, 胴上部明赤褐色。口縁部・胴上部 1/4 強残存。内・外面一部煤付着。
8	N 62 - S I 59 床面直上	須恵器・坏	11.2・3.8・6.0	灰オリーブ色, 灰色, 口縁部外面暗灰色。口縁部・体部・底部 1/2 強残存。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
9	N 62 - S I 59 下層	須恵器・坏	11.3・3.0・6.8	灰色。口端部オリーブ黒色。口縁部~底部 1/2 弱残存。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
10	N 62 - S I 59 下層	須恵器・坏	12.1・3.6・6.7	灰色。口縁部 1/4 強, 体部 3/8, 底部 1/2 強残存。ロクロ回転順回り。
11	N 62 - S I 59 カマド	須恵器・坏	12.8・3.6・7.6	灰色。口縁部~底部 1/4 強残存。内面にタール状付着物。ロクロ回転不明。重ね焼き。
12	N 62 - S I 59 上層	須恵器・坏	10.8・3.5・6.5	灰色。口縁部 1/4 弱, 体部・底部 1/4 強残存。ロクロ回転不明。重ね焼き。
13	N 62 - S I 59 周壁溝上層	須恵器・坏	12.0・3.6・7.5	灰色。口縁部 7/8, 体部・底部完形残存。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
14	N 62 - S I 59 床面直上	須恵器・坏	12.1・4.0・5.4	黄灰色, 灰色。完形。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
15	N 62 - S I 59 下層	須恵器・蓋	15.9・(3.5)	灰白色, 灰オリーブ色。口縁部 1/4 弱, 天井部 1/4 強残存。天井部に糸切痕。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
16	N 62 - S I 59 床面直上	須恵器・鉄鉢	18.5・11.8・20.7	灰赤色, 黒褐色。体部外面に自然釉。口縁部 5/8, 体部 3/4 強残存。ロクロ回転順回り。白色針状物質含まれる。
17	N 62 - S D 19 下層	石製品・砥石	現存長 4.9, 現存幅 3.3, 現存厚 1.3。流紋岩。4面使用。	
18	N 62 - ピット	灰釉陶器・埴	-・(2.6)・7.9	釉調不明, 胎調黄灰色。体下部内面に釉。体部少量, 底部 1/4 強残存。ロクロ回転順回り。高台部底面に工具痕。
19	N 62 - 表土	須恵器・坏	-・(2.3)・5.3	明褐色, にぶい黄橙色。体部 1/2 強, 底部残存。ロクロ回転順回り。
20	N 62 - 表土	須恵器・高台付埴	-・(3.4)・6.2	にぶい黄橙色。体部少量, 底部~高台部 7/8, 高台端部少量残存。ロクロ回転順回り。未野産か。高台は輪状に剥離する。坏内面底部に方形の工具痕、高台取付けの際の当て具の痕跡か。
21	N 62 - 表土	須恵器・高台付埴	-・(2.1)・7.1	橙色。体部少量, 底部 1/2 強残存。ロクロ回転順回り。
22	N 62 - 表土	須恵器・高台付坏	-・(1.1)・-	橙色。底部 1/4 弱残存。ロクロ回転順回り。内面にヘラ書 A (「×」)。



第 1874-8 図
完掘状況 (南)



第 1874-9 図 N 62 - S I 59
床面検出状況 (南)



第 1874-10 図
N 62 - S I 59 竈全景 (南)



第 1874-11 図
N 62 - S I 59 須恵器 (鉄鉢)
出土状況 (東)



第 1874-12 図
N 62 - S I 59 掘り方全景 (南)



第 1874-13 図
N 62 - S D 19 全景 (北)



N 62 - S I 59(1)



N 62 - S I 59(2)



N 62 - S I 59(3)



N 62 - S I 59(4)



N 62 - S I 59(5)



N 62 - S I 59(6)



N 62 - S I 59(7)



N 62 - S I 59(8)



N 62 - S I 59(9)



N 62 - S I 59(10)



N 62 - S I 59(11)



N 62 - S I 59(12)



N 62 - S I 59(13)



N 62 - S I 59(14)



N 62 - S I 59(15)



N 62 - S I 59(16)



N 62 - S D 19(17)



N 62 - ヒット (18)



N 62 - 表土 (19)



N 62 - 表土 (20)



N 62 - 表土 (21)



N 62 - 表土 (22)



第 1874-14 図 出土遺物